

第2回技術委員会（準備書第2回審議）での意見等及び事業者の見解

No.	区分	委員名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
1	地形・地質	富樫委員	<ul style="list-style-type: none"> 今回の地質調査は支持層の確認が目的であるため詳細は不明との見解だが、地すべり面の上部地盤に新施設を建設する場合、地すべりが動いたら支持層のあるなしに係わらず建物は壊れてしまう。地すべり面の存在が判明した時点で正確に究明すべきである。建設予定地は荷重をかければ最も危険な場所なので適切に対応する必要があるが、どのように考えているのか。 現在の施設は建設から数十年程度であり、今まで地すべり面が動かなくても、新施設の建設により全体の安全率が下がる計画のため、必要があれば調査やデータで安全性の根拠を示してほしい。 今出されている資料では、十分に安定しているから大丈夫だと考えられる客観的な根拠にはなっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 建設予定地の地層は1万年前のものであり、十分に安定しているという地質調査の結果が出ています。また、既存の岡谷市清掃工場所在地への建替計画であり、支持層までしっかりと支持杭を入れることによって、問題はないと考えています。 準備書4-8-4ページに、現地踏査等で新たな地表の亀裂等最近の動きは見られず、現在は地すべり全体としては十分安定しているという調査結果を示しています。改変はほとんど切土であり、盛土部分の建物は高さを低くして荷重をできるだけ分散する計画で、建物は主に切土の安定部分に建てることとなります。 三十数mというボーリングを実施し、支持層の確認だけでなく、できる限り地質の特性を把握したつもりですが、今後も施工段階で必要となる追加の地質調査等について対応してまいります。 次回までに整理をして御説明させていただきます。 【事後回答】 建設地における土地の安定性（地すべり）について、別途資料（資料1-1）で提示します。
2	地形・地質	梅崎委員	<ul style="list-style-type: none"> 準備書4-8-5ページの地形判読図に地すべりブロックの記載があるが、この規模であれば移動量を継続計測していると思われるので、降雨の状況、地下水位のデータと合わせて、根拠として示せばよいかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 次回までに可能な範囲で調査し、御回答します。 【事後回答】 移動量等のデータは計測されていません。なお、地下水については、地質調査のボーリング掘削時における作業前後の孔内水位の記録により推定し、建設地の透水性は低いと考えておりますので、造成工事においては、地下水排除工など、十分な排水対策を実施します。
3	大気質	鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> 資料1-3では地上気象のみ日別に整理しているが、上層気象の日別のデータについてはどこかに記載されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 上層気象は、資料編1-483、484ページに記載されていますので、御確認をお願いします。
4	土壌汚染	小澤委員	<ul style="list-style-type: none"> 資料1-4において、ダイオキシン類の同族体パターンは、焼却関係の発生源においても様々なパターンがあり由来の特定は難しいが、農業（PCP）を要因としたのは現場における使用履歴から想定したのか。 St.1～St.3の地点は、ダイオキシン同族体パターンがほぼ同じことから、同じ起源であることがいえると思う。準備書4-7-6ページの調査結果にある、St.1～St.3以外の地点についても、比較のため同族体パターンのデータを添付していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 使用履歴の確認はしておらず、パターンのみから要因を推定しました。 データはありますので、可能であれば添付します。 【事後回答】 St.4～St.8のデータを追加します。別途資料（資料1-2）参照。（評価書対応）
5	全般	佐藤委員	<ul style="list-style-type: none"> 資料2のNo.4で、全般的に環境保全目標は「現状より悪化させない」というネガティブな言葉が多いが、「現状を改善させる」という表現にできないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 御意見ということで承らせていただきます。
6	地形・地質	佐藤委員	<ul style="list-style-type: none"> 建設予定地周辺では2006年の大雨により土砂災害が発生したが、当時のデータを調べれば、土盛をする地点の土壌の弱さ等がシミュレーション出来るのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 2006年の大雨の災害は土石流で表面のすべりであり、今回検証したい地すべり面の動きとは異なるデータになると思います。

No.	区分	委員名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
7	騒音	塩田委員	<ul style="list-style-type: none"> 資料2のNo.9からNo.10に、事業者の見解として「本事業における影響は軽微である」と記載しているが、住民への説明は誤解がないようにもっと丁寧に文章化した方がいいのではないか。 準備書では「軽微」と記載していないので、資料2の事業者の見解は準備書の文言と整合性をとって説明した方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 準備書5-7ページに評価結果として、具体的な数字を記載することにより、軽微であることを具体的に示しています。 事業者の見解については、準備書の表現を使って回答するよう評価書で対応します。
8	大気質	片谷委員	<ul style="list-style-type: none"> 準備書4-1-58ページの焼却施設の稼働に伴う大気質の影響に係る予測方法で、カドミウム、鉛、水銀については類似施設における測定結果による発生源データを基に予測したとのだが、その結果はどこに記載されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 準備書4-1-58ページの記載は誤りで、準備書4-1-109ページに記載のとおり、カドミウム、鉛、水銀については予測範囲における現況環境濃度及び計画施設の発生源データを基に、定性的な予測をおこなったということで評価書では統一させていただきます。
9	大気質	片谷委員	<ul style="list-style-type: none"> 準備書4-1-95ページの予測結果では、二酸化窒素の年平均寄与濃度はバックグラウンド濃度に対してかなり高い状況であるが、保全目標は環境基準なので十分クリアしているという評価である。準備書4-1-97ページには、環境負荷のさらなる低減を図ることが記載されているが、発注条件で性能が改良された新しい建設機械を使用する建設業者を選定する努力など、最大限の低減を図る姿勢について評価書には記載していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 委員の御意見を十分反映し、業者選定等においても最新型の建設機械使用を明記するなどいたします。
10	大気質	片谷委員	<ul style="list-style-type: none"> 準備書4-1-139ページに予測地点の最大着地濃度と影響割合の一覧表があるが、二酸化硫黄のデータを代表して記載した理由を教えてください。 二酸化硫黄の現況濃度は環境基準よりはるかに低く、全く問題のないレベルである。二酸化窒素の影響割合は1.4%だが、現況濃度は環境基準に近い数値であり、表には二酸化窒素を代表して記載すべきではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 二酸化硫黄の影響割合が4.8%と最も高いため、表には代表して記載しました。 【事後回答】 影響割合が最も高い二酸化硫黄に加え、環境基準値に近い二酸化窒素について、最大着地濃度と影響割合の一覧表を作成します。（評価書対応）
11	大気質	片谷委員	<ul style="list-style-type: none"> 準備書4-1-151ページのPM2.5の予測に当たり、発生源寄与割合の文献値として東京都環境科学研究所の数値を使用しており、廃棄物焼却については0%と記載されているが、小数点以下に数値がある筈である。廃棄物焼却からPM2.5が全く出ないとの誤解を招くおそれがあるため、確認して記載願いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 追加ヒアリングを行って対応します。 【事後回答】 ヒアリングの結果入手した最新データに差し替えます（自動車排出ガス14.6%、廃棄物焼却3.2%）。別途資料（資料1-3）参照。（評価書対応）
12	悪臭	片谷委員	<ul style="list-style-type: none"> 準備書4-5-16ページで、発生源条件は確定していないが現段階で影響が大きくなると想定される条件を設定したとあるが、具体的にはどういう意味か。 類似事例を参考にしたのであれば事例をきちんと引用し、いくつかの事例のうち最大値を使ったのであれば、それも含めて説明を追加してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 予測条件として、既存事例等を参考に想定される規模での最大値ということで設定しました。 御指摘を踏まえ、評価書において修正させていただきます。
13	悪臭	片谷委員	<ul style="list-style-type: none"> 準備書4-5-19ページで類似事例として挙げられる9施設について、悪臭防止対策が共通していることの説明はあるが、施設の方式や規模などの情報も追加してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 類似施設であることが分かりやすくなるよう、評価書において追記させていただきます。 【事後回答】 一般廃棄物処理施設実態調査結果（平成23年、環境省）に基づき、処理方式と施設規模を追記します。（評価書対応）
14	全体	塩田委員	<ul style="list-style-type: none"> 参考及び引用している資料について、事業者の立場で拡大解釈している場合があるので、専門家への相談や関係する学術論文を確実に調査して、根拠を明確にすることが必要である。また出来るだけオリジナルの資料を利用し、引用ページもしっかり記載するなど、環境省のいう「メリハリのある環境影響評価」の実施のため、しっかりと対応願いたい。 【亀山委員長】 準備書への意見に対する事業者見解として、出典や参考文献の名称をしっかりと記載する旨の回答が記載されており、引用、参考文献については引用部分等を明示するよう心がけてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 【事後回答】 引用部分を含めて、できる限り明示します。（評価書対応）